

明日に架ける橋

2026年度 進路だより 第3号
兵庫県立明石高等学校進路指導部
2026年6月17日発行

3年生は、いよいよ受験戦線に突入です

79回生の2年生3学期末の進路講演会で「3年生6月になれば、誰でも受験勉強を開始する。その人たちよりいち早く受験勉強に取りかかって、第一志望校合格を勝ち取ろう」という話がありました。3年生の皆さん、既に実行済みですか？ 受験勉強は本気でやらなければなりません。明石高校の生徒が希望している大学の多くが、実質倍率3～4倍、学校によれば10倍を超えるようなところもあります。ここに行くためには、いかに本気で勉強に取り組むか、です。

先日、3年生の保護者会で、進路指導部長の池本先生が、第一志望校に合格した生徒の共通点を保護者の皆様に話しました。

- ・部活動を最後まで頑張った生徒
- ・塾に行かずとも、授業、補習を大切にした生徒
- ・早朝、休み時間、通学時間などの隙間時間で英単語を覚えるなど工夫した生徒
- ・「基礎」を大切に、毎日継続して勉強した生徒
- ・推薦入試が不合格でも、一般選抜まで気持ちを切らさずに頑張った生徒

などです。『進路の手引き』の「合格体験記」に詳しく先輩方が書いてくれています。しっかり読んで取り入れて、本気モードを実践しましょう。

参考までに、今春卒業した78回生(310名)の進路別実人数は、以下の通りです。学校ごとの合格者数は『進路の手引き』を参照してください。

4年制大学	252名(国公立大学28名、私立大学224名)
国立大学	3名
短期大学	5名
専門学校	33名(看護専門学校4名、その他の専門学校29名)
就職	1名(民間企業1名)
浪人	16名

国公立大学の進学者が例年より減りましたが、78回生は近畿圏の難関国立大学受験者が多くいました。この人たちは、近畿圏の難関私立大学を併願して合格しましたのであえて地方国公立大学を受験しなかったことから、国公立大学進学者数が少なくなりました。また浪人も例年より若干多いですが、この中には難関私立大学に合格はしたが来年頑張って国立大学に行きたい、という決意の人などもいますので、浪人が多くなっています。しかし実力を持っての浪人ですから、来年は第一志望校に合格できることでしょう。

定期考査を活かしましょう

1学期中間考査の答案返却、個人データ配布はすでに終わりました。点数や順位で一喜一憂するのではなく、実力養成のために、定期考査を活かしましょう。一番大切なことは定期考査のやり直し(復習)、俗に言う間違い直しです。次に同じ問題を解いた時に満点を取れるまで、テストの復習を徹底してください。必ず、大学入試対応ができる学力がつかます。

大学入試では、100点満点を取る必要はありません。卒業した78回生も今の3年生も、進学希望者が多い私立大学は、関西学院大学・関西大学・甲南大学・近畿大学です。例えば2025年度入試(2026年度データは秋以降ぐらいに公表されます)の主な大学の前期一般入試(2月上旬・最も受験生が多い受験パターン)の合格最低点(得点率)は以下の通りです。

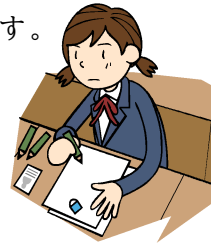
関西学院大学	法学部	56,5%	経済学部	57,4%	理学部	51,7%
関西大学	法学部	61,3%	経済学部	61,5%	化学生命工学部	58,7%
甲南大学	法学部	58,3%	経済学部	61,7%	理工学部	49,3%
近畿大学	法学部	59,3%	経済学部	59,3%	理工学部	50,3%

「関学の入試問題は難しい!」とよく言われますが、60%を取れば合格します。他の大学もほぼ同様です。誰もできないような難しい問題は気にしないで、授業・定期テストで学んだことをマスターすれば、難関校でも必ず合格ラインに届きます。

定期考査で高い点数を取れた人は、次の2点ができている人です。

1. 予習をしっかりして、授業に臨む。
2. 授業に集中して、先生の喋ったことを聞き漏らさず、ノートに書いている。

逆に、思った点数が取れなかった人は、上の2つをまずやってみましょう。1・2年次生はもちろんですが、3年生でも遅くはありません。必ず成果に現れるはずですよ。



模擬試験の活用と、受験の勧め

先日3年生がベネッセ大学入学共通テスト模試を受験しました。模擬試験の活用方法は定期考査と同じです。不正解であった問題を、徹底的に復習しましょう。試験後に解答が渡されて自己採点をしますが、正解した、間違えただけの確認はナンセンスです。設問ごとの解説をよく読み理解して、その問題に関する学力・知識を完璧に身に付けましょう。

校内で実施する1学期の模試・実力テストは、次の通りです。

3年生	6月26日(金)・27日(土)	ベネッセ総合学力記述模試
1・2年次生	7月8日(水)	ベネッセ総合学力テスト

また、ベネッセ主催以外の模擬試験が、校外(公開会場)で頻繁に行われます。模擬試験は回数を受けるほど、実践問題に慣れ、復習をすることで実力が付きます。さらに、公開会場は大学のキャンパスで実施されることが多く、大学の雰囲気も知ることができて、入試本番のリハーサルにもなります。

多くの大学受験生が受ける全国最大の校外模試は、全統模試です。全統模試は浪人生の大半が受験しますので、自分の実力、志望校の合格可能性などがよく判ります。全統をはじめ主な模試については、Googleクラスルームを通して全員に案内をしています。

また公務員志望者や一般企業への就職希望者は、大学入試と違った問題に対応しなければなりません。公務員は既卒者や一般企業からの転職者も多く志願します。公開会場での公務員模試が多く実施されていますので、ぜひ受けて今後の公務員試験対策に活かしてください。一般企業志望者は、実務教育出版などが主催しているWeb高校就職模試を受験して入社試験問題の傾向を知りましょう。不明な点は進路指導部まで尋ねに来てください。

進路指導室に行こう!

中間考査が終わり、毎日、始業前、昼休み、放課後には多くの3年生が相談や調べものに進路指導室に来てくれています。

前回お知らせした「進路相談箱」にも多数相談が寄せられています。最近の相談内容は「近年の神戸大学受験者数と合格率は?」や「公共ほどの程度まで勉強すれば良いですか?」など教科についての質問もあります。中には「大学卒業時の履歴書に大学入学方法を書く欄があるため、推薦で大学に行けば就職に不利になると聞きましたが本当ですか?」などの情報の確認質問もあります。履歴書に入学方法を書く欄はないので推薦入試で大学進学をしても就職に不利になるはずはありませんが、このような誤った情報の確認も大切です。全ての質問に対して、進路指導部や教科担当の先生が丁寧に回答して掲示しています。同じ悩みの共有もあるはずですので、週に1度は進路指導室前の掲示板を見て悩み解決も共有してほしいと思います。1・2年次生もどんどん来てください!



閑話 先月の全校集会で泉村校長先生からお話があったように、5月26日は明石高校の創立記念日です。今年が中間考査中ということで、28日が振替の休業日になりました。(3年生は模試の登校日でしたが)

明石市は1919年(大正8年)に、明石町から兵庫県で4番目の市として昇格、2年後の1921年(大正10年)には市民の要望により明石市立明石中学校の設立が明石市議会において決議されました。1923年(大正12年)4月、初代校長山内佐太郎先生のもと、現在の場所で明石中学校は開校し、5月26日に開校記念式典が挙行されました。翌年からこの5月26日が創立記念日と定められ、今年で103回目の創立記念日を迎えたことになりました。開校から5年後の1927年(昭和2年)に明石市立から兵庫県立に移管され、旧制の兵庫県立明石中学校となりました。

明石中学校設立には多方面からの寄付が寄せられ、中でも中部幾次郎氏が多額の援助を行いました。中部氏は明石郡林村(現明石市林)出身で鮮魚の卸を生業とし、大洋漁業(現Umios)の前身林兼商店を設立しました。故郷明石の青年教育のために尽力した中部氏の功績を後世に伝えるべく、明石公園の入り口に銅像が建てられていますので、皆さんもなじみがあると思います。ちなみに明石中学校1期生は、204名の入学定員に対して1425名が受験し、倍率7倍という超難関でした。

明石高校の伝統を今年度もこの紙面で伝えていきたいと思っています。母校明石高校への誇りをより一層持ち、進路実現への一助としてほしいと思います。(責o)

